

令和7年度 事務事業マネジメントシート

1 事業概要		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価					3550	生涯学習支援事業					教育委員会事務局教育総務部	生涯学習課
		中事業番号		1153									所属コード	513000
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X推進	手段	意図（目的）		
大綱（取組）	Ⅳ「誰もが地域で輝く未来」	3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4.7 13.1 13.3	○	6-3		○					・「生涯学習きらめきバンク」を設置し、市ウェブサイトで情報を提供する。「市政きらめき出前講座」として、市職員がいつでもどこでも講師として出向く。 ・主に高校生を対象とした多様な学習の場を提供する。	・生涯学習の情報と市政の学習機会を提供することによって、市民の生涯学習の機会の確保を図る。 ・学習・交流・活躍の場を創出し、郡山の次世代を担う人材を育成する。		
施策	2 好きなこと、得意なことを地域で学び生かせるまち													

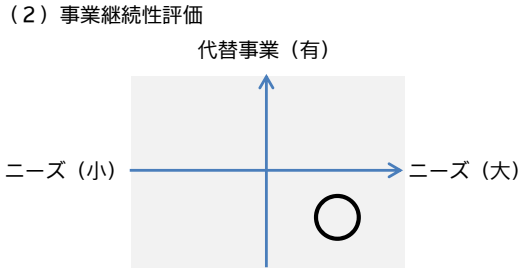
事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
平成8年度に郡山市職員若手政策研究会から「生涯学習きらめきバンク」及び「市政きらめき出前講座」の提案を受けたことにより開始した。	・人々のライフスタイルの多様化や情報化社会の到来等による、学習ニーズが多様化している。さらに、人生100年時代に対応した生涯学習環境の充実が求められている。 ・中央公民館や中央図書館の学習スペースの利用状況については、高校生、大学生などの利用者が増加傾向にある。また、「みなさんの声」で「学習できるスペースが足りないので増やしてほしい」「勉強する環境が少なすぎる」などの要望がある。	・市民の学習ニーズが多様化していることや、市民参画による市政運営を行う上で市民の市政への理解を啓発する必要性から、当該事業の必要性はますます高まっている。また、ライフスタイルの多様化から、「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境の整備」が必要となってくる。 ・中央公民館や中央図書館などの学習スペース利用者の増加が予想され、増設や多様な学びの場の提供が必要となってくる。	・多岐にわたる市の事業内容や幅広い分野での学習内容に受講ニーズがある。 ・高校生や大学生などからの学習スペースの利用ニーズ及び拡充要望がある。

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）		2024年度（令和6年度）		2025年度（令和7年度）		2026年度（令和8年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	市民	人		324,586		322,515		319,680								
活動指標①	生涯学習きらめきバンク登録件数	件	300	203	300	161	300	176	300		300		300	300		
活動指標②	市政きらめき出前講座申込件数（R5～）	件	300	260	300	299	300	365	300		300		300	300		
活動指標③	学習スペース実施日数	日					300	210	300		300		300	300		
成果指標①	生涯学習きらめきバンク「達人先生」活動件数	件	3,000	1,061	3,000	965	3,000	784	3,000		3,000		3,000	3,000	3,000	3,000
成果指標②	市政きらめき出前講座受講者数	人	12,000	10,005	12,000	10,492	12,000	13,095	12,000		12,000		12,000	12,000	12,000	12,000
成果指標③	学習スペース利用者延べ人数	人					9,000	4,816	12,000		12,000		12,000	12,000	12,000	9,000
単位コスト（総コストから算出）	出前講座受講者1人あたりのコスト	千円		0.4		0.6		1.2	0.5		0.5		0.5	0.5		
単位コスト（所要一般財源から算出）	出前講座受講者1人あたりのコスト	千円		0.4		0.6		1.2	0.5		0.5		0.5	0.5		
事業費		千円		77		77		5,359	5,501		5,501		5,501	5,501		
人件費		千円		4,394		5,734		10,123	5,734		5,734		5,734	5,734		
歳出計（総事業費）		千円		4,471		5,811		15,482	11,235		11,235		11,235	11,235		
国・県支出金		千円														
市債		千円														
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		4,471		5,811		15,482	11,235		11,235		11,235	11,235		
歳入計		千円		4,471		5,811		15,482	11,235		11,235		11,235	11,235		
		実計区分	評価結果	継続	改善	継続	改善	拡充		継続						

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
生涯学習きらめきバンク登録件数は、前年度よりは増加したが高齢化の影響もあり計画に届いていない。市政きらめき出前講座申込件数は新型コロナウイルス感染症の5類移行後、順調に増加し計画を達成している。学習スペースの実施日数は計画には届いていないが、210日実施することができた。今後も市民のニーズにあったメニューの充実を図るとともに、オンラインによる実施可能なメニューの周知を図っていく。	生涯学習きらめきバンク「達人先生」の活動件数は、登録者の高齢化が進んでおり減少している。きらめき出前講座受講者数は、新型コロナウイルス感染症の5類以降、順調に増加し計画を達成している。今後も市民のニーズにあったメニューの充実を図るとともに、オンラインによる実施可能なメニューの周知を図っていく。学習スペースの利用者は実施初年度ということもあり、計画の53.5%となっている。	【事業費】 新規事業として、「広域圏高校生の学びの広場」事業（学習スペースの実施）を実施したことから、事業費が増加した。※当該事業費5,334千円の80%が特別交付税措置される。  【人件費】 新規事業として、「広域圏高校生の学びの広場」事業（学習スペースの実施）を実施したことから、人件費が増加した。

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		3
2 公平性		4
3 効率性		3
4 活動指標（活動達成度）		4
5 成果指標（目的達成度）		2



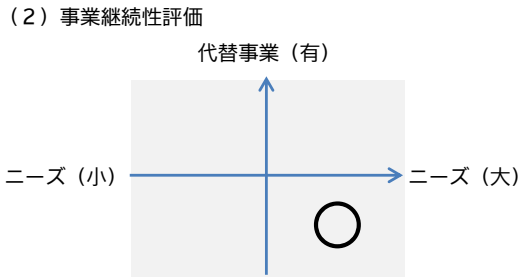
継続	一次評価コメント
多様化する市民ニーズに柔軟に対応できるよう、事業内容を精査しながら実施する。出前講座に関しては、オンライン開催などの方法により実施していくとともに、まなびライン等を活用した広報を行い積極的にPRしていく。また、出前講座の実施時に動画を収録し、YouTube配信を利用した事業展開や市ウェブサイト、LINE等での登録講師紹介などについても検討していく。きらめきバンクの登録者数は講師の高齢化に伴って減少傾向にあることから、登録用紙を分かりやすく修正するとともに、活動継続のアンケート調査を実施したところである。今後も公民館での講師登録案内のほか、まなびLINEや生涯学習ポータルサイトなどのSNSを積極的に活用し登録者数の増加を図っていく。学習スペースについては、市民ニーズに応えるため可能な限り開放していく。 ※メニューにオンラインによる実施可能講座掲載済(107講座の内77講座対応) R6オンライン実施件数365件の内 2件	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
		○			

気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協奏
	○	○

4 二次評価

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		2
2 公平性		4
3 効率性		3
4 活動指標（活動達成度）		4
5 成果指標（目的達成度）		3



改善	二次評価コメント
令和6年度の新たな取組として、学習スペースの開設に加え、主に高校生を対象にした「Z世代カンファレンス」や大学生との交流の場を提供し、多様な学習機会の創出に寄与した。新規事業の開始により、事業費が増加したものの、この取組ではクラウドファンディングを活用するなど、財源の確保にも工夫が認められる。 一方で、生涯学習きらめきバンクにおける「達人先生」の活動件数は784件と減少傾向にあり、社会情勢の変化に伴うニーズの縮小が見られる。 市民の多様な学びのニーズに応えるため、事業内容の見直しと改善が必要である。	

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画
(1) 具体的なカイゼン策 ・登録者減の要因を調査するため、活動継続の有無や活動回数の減少理由などについてアンケート調査を令和6年度内を行う。また、DXの推進を図るため、Zoomなどを活用した講座等の開催が可能か調査を行う。 ・公民館で実施した講座の講師や地域で活躍している人材に対して声掛けし、登録を促すとともに、「郡山市まなびLINE」によるバンク登録講師やメニューの紹介など、SNSを積極的に活用しPRを行っていく。 (2) カイゼンの明確な時期 ・令和6年9月以降、公民館を通じて声掛けやSNSを活用した広報活動などを実施し、登録用紙も修正する。 ・令和7年3月にアンケート調査を実施する。 (3) カイゼンのために必要な事項・関係する所属 ・生涯学習課 → 登録用紙の修正とアンケート調査 ・各公民館 → 講師等への声掛け ・広聴広報課 → SNSでの広報